

みき通信



日本共産党 町議会議員
くぼたみき 活動報告

第41号 2014年5月25日

発行 **がんばれくぼたみきの会**

連絡先 875-7126 (阿部)

声をあげよう！ いのちとくらし 平和を守るために

5月15日、今年も平和行進が行われ、葉山町の役場前から池子の米軍住宅ゲート前まで、雨の中を歩きました。

そのあいさつの中で、被爆者の方が自らの体験を通して、核兵器廃絶と反戦の願いを語りましたが、同じ日に安倍首相は、集団的自衛権行使容認の検討を表明しました。その会見の中で示された「機雷除去」など6つの事例は、元内閣官房副長官補 柳沢協二さんによれば、最強の軍事力をもつ米国をどこの国が攻撃するのかなど、どれも奇想天外で現実離れしたもので、具体的必要があってではなく、ただやりたいのだろうと分析しています。

ロシアとウクライナ、中国とベトナムなど国と国とのトラブルがあいつぎ、その国民の間で暴力的な行動が目立っています。もし日本がそうなったらと、不安をかきたてる報道が続くと「国民を守る」「領土を守る」「そのための集団的自衛権」という言葉が、一見力強く聞こえますが、周辺国に警戒心をおこさせ、緊張を高めているのは、実は過去の戦争を賛美する靖国神社に参拝するなど、安倍首相の言動そのものなのですから、さらに緊張を増すのは目に見えています。

おまけに大増税に社会保障の切り下げなど、今生活そのものを維持していくのが困難になっているというのに、「国民を守る」なんて信じられますか？ 地震と津波であれだけの被害をうけ、今だに収束の見通しもない原発にしがみついて、世界に売り歩く人物を信じていいのでしょうか！？

だれも望まない戦争への道を進むのではなく、「生活が第一！」ともしっかりと大きな声で、はっきりと、何度でも声を出していきましょう。 あきらめずに！

小さくとも「自立のまちづくり」

町会議員 くぼた みき

同僚議員三人で、岡山県に「自立のまちづくり」を、視察に行ってきました。まずはじめは日本で一番美しい村と言われている「真庭郡新庄村」です。平成の大合併が行われていた時、国の言う事だけでなく、新庄村独自の立場で、合併した場合としない場合のメリット・デメリットを、財政・行政サービス、人口流出など、村民全員がしっかりと考え、近隣が合併する中で合併しない道を選びました。村議会は、村民が決めた合併しない道を支えるため、「小さくとも自主・自立を目指す新庄村宣言」の決議を挙げ、次世代に引き継いでいくことを宣言しました。今の人口はわずか980人、人口は横ばいとのこと。村長は「将来展望に不安はない」と、笑顔の答えに「自信」を感じました。

町民福祉は、「ゆりかごから墓場まで」をかかげ、医療費は高校生まで無料、子育て支援はとて充実しています。重要なのは「雇用対策」と、30年かけ村全域で「ひめのもち」というもち米を育て、ブランド化した「お餅製品」の生産・販売など、独自の取組みで自立していました。

もう一カ所、合併しない道を選んだ自治体「奈義町」です。

「子育て応援宣言の町」として、妊産婦健診は全額補助、予防接種など予防医療にも力を入れ、小児医療費助成は高校卒業まで、「高校就学支援事業」など子育て支援に力をいれています。さらに今年度から、病児保育を取り組みます。高齢者には介護予防事業として平成15年に「ウォーキングプール」を作り、近隣自治体からも利用依頼が来るなど好評で、町立の近代美術館も維持しています。施設整備はその時々、国の補助金を上手に使っていました。

「自立」を目指す両自治体の「まちづくり」には、行政側に「自信」がみなぎっていると感じました。

「新庄村」や「奈義町」などの地方には「臨時財政対策債」と同じような国が返済する「過疎債・へき地債」などがあり、このような国の財政支援（補助制度）を上手に活用して「自立した自治体」づくりをしていました。

葉山町は財源の大半は町民の税金です。財政規模の違いや財源の違いはあっても、財政の運用はその自治体に任されています。首長がどんな町をめざすのが、町民にどのように還元していくのが、町民の方々の幸福感はどこにあるのか。行政の「まちづくり」に対する姿勢が試されているように感じました。